

社会資本総合整備計画
(旭川都心地区都市再生整備計画)
事後評価シート

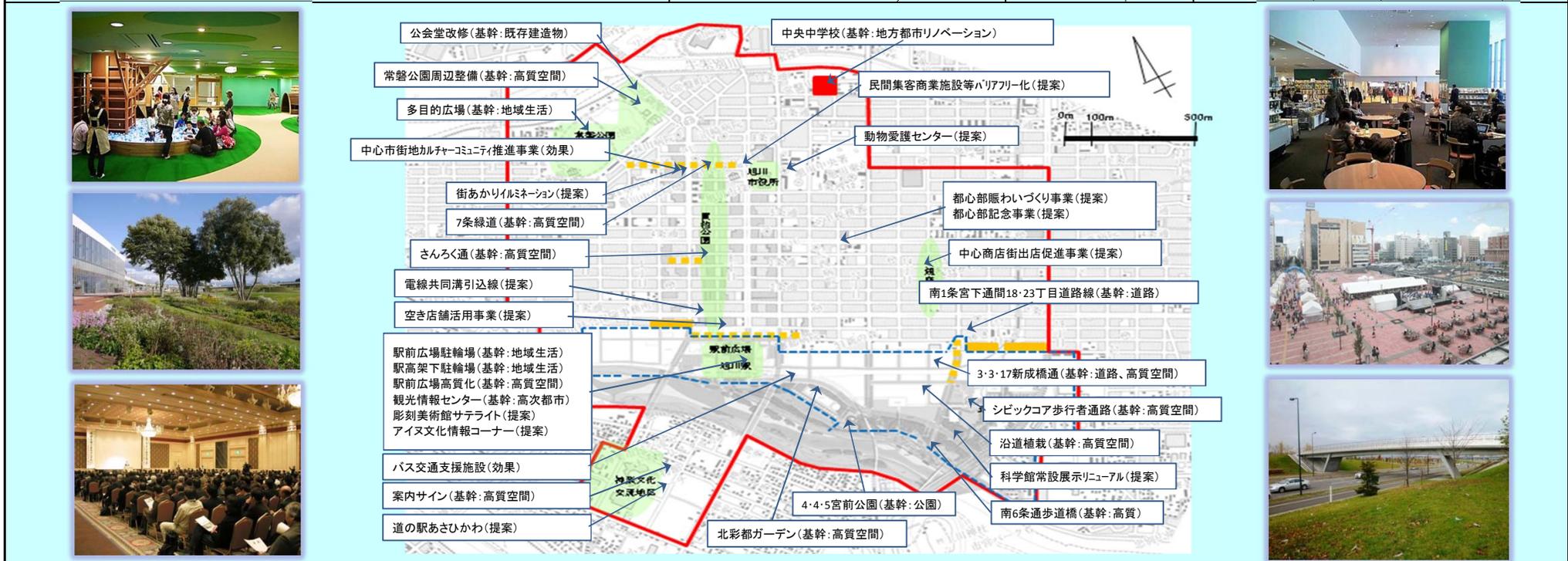
平成27年 3月

北海道 旭川市

様式2-2 地区の概要

旭川都心地区(北海道旭川市) 社会資本総合整備計画(都市再生整備計画事業)の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
【大目標】 既存都心部と北彩都を有機的に連携し、地域の資源を活かして拠点性の高い活力ある都心空間を創造する。 (賑わいの創出と地域経済の活性化) 【目標1】 都市の文化を活かした高質空間の整備(文化) 【目標2】 都市部の交通利便と都市内回遊性の向上(交通) 【目標3】 増加する観光需要を支え、さらに都心部に呼び込む環境整備(経済) 【目標4】 地域資源を活かし、市民が集い交流できる都市空間の整備(交流) 【目標5】 既存ストックを活用した効果的な都市機能の再生によるまちなか居住人口の増加 【目標6】 既存ストックを活用した効果的な都市機能の再生による中心市街地における回遊性向上	買物公園等におけるイベント回数	単位: 回	36	H20	50	H26	54	H25
	買物公園の放置自転車台数	単位: 台	600	H21	200	H26	64	H26
	観光情報センターの利用者数	単位: 人	50,922	H20	55,000	H26	60,063	H25
	公会堂の年間利用率	単位: %	41	H18	55	H26	51	H25
	まちなか居住人口(4条通以北)	単位: 人	5,283	H24	5,400	H26	5,319	H26
	歩行者通行量(買物公園4条通以北)	単位: 人/日	14,569	H24	18,900	H26	16,173	H26



まちの課題の変化

- ・神楽地区と既存市街地は、2つの橋と中間に位置する北彩都地区の整備と共に、神楽地区の道の駅改修や、中心部と連携した案内サインの整備などにより、一帯的な都心部形成が推進された。今後はこれからの人口減少、超高齢社会を迎える中、都心部として安心して子育てや生活ができる都市機能の充実が必要である。
- ・駅に隣接する観光物産情報センターや南側の北彩都ガーデン、またイベント空間を持つ駅前広場の完成により、交流拠点や情報発信の拠点が形成され、更には、イベントなどの開催や観光バス待機場の整備などによる交通利便性の改善などから、都心部への観光客誘導に繋がった。
- ・都心部の道路や電線共同溝、案内サイン、また駐輪場などの整備により買物公園の放置自転車が激減するなど、都心部の回遊性向上に繋がった。
- ・常盤公園、公会堂、7条緑道のハード整備と共に、街あかりイルミネーション事業やカルチャーコミュニティ推進事業などソフト事業を展開することで都心部の魅力づくりに繋がった。
- ・都心部の記念事業や地域資源を活用したイベントの開催、更にはまちづくりに関わるシンポジウムや、市民による北彩都ガーデンサポーターなど、市民が主体となった活動により都心部の賑わいづくりに繋がった。
- ・4条以北エリアの賑わいを取り戻すため、中央中学校などの基盤整備やカルチャーコミュニティ推進事業などのソフト事業を展開したが、買物公園にはまだ空き店舗が多くあることから、更なる賑わいづくりが必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・都市の文化を活かし、都心部のシンボリックなエリアや北彩都地区の整備を継続することで、更に多くの観光客が来街し、居住者が増加するような、魅力ある高質な都心空間を形成する。
- ・引き続き道路などのバリアフリー化や案内サインの整備を進めると共に、駅やバス発着場が集積する買物公園の冬期間の移動円滑化について推進し、更に都市部の交通利便性と回遊性向上を図る。
- ・市民や観光客が集う交流空間の整備と空き店舗活用などの支援を行うことや、来街する切っ掛けとなるイベントを開催するなどの事業を継続し、更に賑わいある都心部を形成する。
- ・都心部の居住者を増加し活力ある都心部の形成のため、住民が安心して子育てや生活ができるよう必要な都市機能の充実を図る。

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	旭川市		地区名	旭川都心地区			面積	478ha	
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	4,936百万円	国費率	47%			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ・道路事業(新成橋通) ・地域生活基盤施設(駐輪場、歩くスキー情報板) ・高質空間形成施設(7条緑道整備、公会堂周辺外構整備、さんろく通整備、サイン設置、沿道植栽、シビックコア歩行通路整備、南6条通歩道橋) ・高次都市施設(観光情報センター) ・既存建築物活用事業(公会堂改修)									
		提案事業	・まちづくり活動推進事業(都心部記念事業、都心部賑わいづくり事業、市民まちづくり啓発事業) ・地域創造支援事業(科学館常設展示リニューアル、電線共同溝引込線整備、空き店舗活用事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(歩くスキー情報板)		市単独事業で整備			影響なし				
		提案事業	なし									
	新たに追加した事業	基幹事業	道路事業(3路線) ・公園事業(北彩都ガーデン) ・地域生活基盤施設(常盤公園多目的広場) ・高質空間形成施設(常盤公園周辺整備、石狩川河川空間整備、環境重視エリア推進、歩行空間公共集客施設バリアフリー化、駅前広場高質化) ・地方都市リノベーション施設(中央中学校)		・まちづくりの目標達成のため追加			影響なし				
		提案事業	地域創造支援事業(中心市街地出店促進事業、街あかりイルミネーション、民間集客商業施設等バリアフリー化支援、動物愛護センター) ・まちづくり活動推進事業(旭川駅・駅前広場オープン記念事業)		・まちづくりの目標達成のため追加(買物公園4条以北の賑わいづくりのため)			影響なし(新たな指標を設定)				
効果促進事業		バス交通支援施設設置事業 ・コミュニティバス運行支援整備事業 ・道の駅あさひかわ整備事業 ・空間活用整備支援 ・中心市街地カルチャーコミュニティ推進事業 ・北彩都ガーデン活用調査		・まちづくりの目標達成のため追加(買物公園4条以北の賑わいづくりのため)			影響なし(新たな指標を設定)					
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
	変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	買物公園等におけるイベント回数	回	36	H20	50	H26	54	○	あり	買物公園と一体となった駅周辺整備の完了や賑わいづくり事業の実施により、市民が主体となったイベント開催の促進に繋がり、目標値を達成できた。	平成27年4月
	指標2	買物公園の放置自転車台数	台	600	H21	200	H26	64	○	あり	駅周辺の駐輪場や道路が整備されたことなどから、買物公園の放置自転車が激減し、目標値を達成できた。	-
	指標3	観光情報センターの利用者数	人	50,922	H20	55,000	H26	60,063	○	あり	旭川駅舎新築に合わせ、観光情報センターや北彩都ガーデンの整備、また記念事業等のソフト事業により多くの観光客が訪れ、目標値を達成できた。	平成27年4月
	指標4	公会堂の年間利用率	%	41	H18	55	H26	51	△	あり	利便性向上の為の公会堂の改修や、常盤公園などの周辺環境整備をしたことにより、公会堂の利用率が上がっており、今後指標達成が見込まれる。	平成27年4月
	指標5	まちなか居住人口(4条通以北)	人	5,283	H24	5,400	H26	5,319	△	あり	7条緑道等のハード整備と、カルチャーコミュニティ事業などのソフトの展開により、居住人口は増えたが、地域経済低下などの影響から、指標達成はできなかった。	-
指標6	歩行者通行量(買物公園の4条通以北)	人/日	14,569	H24	18,900	H26	16,173	△	あり	買物公園においては、駅周辺の南側に比べ北側の沿道に空き店舗が増えたこと、また地域経済低下の影響などから、目標達成までの歩行者通行量増加には至らなかった。	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	まちなか居住人口(都心部全体)	人	14,143	H24			14,189			民間集客商業施設等のバリアフリー化や、魅力ある都市空間の整備等から、都心部全体の居住人口が増加した。	-
その他の数値指標2	歩行者通行量(買物公園の全体)	人/日	101,121	H24			117,591			都心部で実施する各事業の連携を図ったことにより、これまで減少傾向であった買物公園の通行量は増加している。	-	
4) 定性的な効果発現状況	・旭川駅舎の完成と共に南側に整備された北彩都ガーデンは、多くの市民や旭川駅を降り立つ観光客の憩いの場となっており、新たなまち中の交流の場になっている。 ・フィール旭川(旧丸井今井の空き店舗活用)の7階に整備された自習スペースやシニア大学などの公共空間には、連日多くの市民が訪れ、まちなかに気軽に市民が訪れることができる場所が生まれた。 ・買物公園、旭川駅、常盤公園などを会場とし、平成22年より開催している「北の恵み食べマルシェ」はこれまで継続開催され、毎年70万人以上の市民や観光客をまちなかに呼び込むとともに、旭川を初めとする道北地域の魅力を広くPRしている。											
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況						
						今後の対応方針等						
	モニタリング	中心部のまちづくりに興味のある方を広報で募集し、実際にまちを歩きながら事業の報告をし、その成果について意見を聞いた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●				中核都市の中心部として必要な都市機能の整備と、住民が安心して子育てや生活ができる都心部の形成を目指す。今後も市民目線で事業を評価し、事業推進を図る。
住民参加プロセス	まちづくりに関わるシンポジウムや講演会を実施し、計画の周知や意見聴取、また今後のまちづくりに関して市民と語り合う機会を設けた。			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●				まちづくり計画の策定にあたっては、市民への周知や意見聴取など、今後とも市民との連携を積極的に行う。買物公園を中心に利便性が高く魅力ある都心部を形成し、道北の拠点都市として誰もが住みたくなる、また訪れたいくなるまちづくりを目指す。	
持続的なまちづくり体制の構築	「旭川まちなかマネジメント協議会」設立 ・市民が北彩都ガーデンの管理を行う組織づくり			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●				多くの市民や観光客が都心部に集い、市民が主体となったイベントが開催されるなど、賑わいのある都心部の形成を目指す。	
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								